

現在の風景



毛呂山小学校北側より毛呂駅方面を望む写真  
(昭和53年1月1日) (杉田幸夫さん提供)

まだ毛呂山小学校沿いの道には、図書館や家もなく、毛呂山小学校から、八高線の線路が見渡せます。小学校の校庭からは、走る電車がよく見えました。

募集中

昭和50年代ごろまでの昔の写真を募集しています。提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎ (295) 2112内線332 までご連絡ください。



徒然歳時記

ねんねこ



ねんねこに  
埋めたる頬に  
櫛落つる 高浜虚子

11月も下旬になると、気温がぐっと下がり、ストーブやかたつの準備をしたり、コートやマフラーなどの防寒具を取り出して、本格的な冬支度がはじまります。

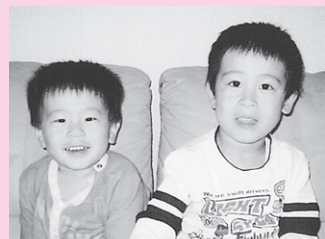
そうした防寒具のひとつに、「ねんねこ半纏」というものがありました。羽織に似た綿入れの上っ張り、幼児を背負うとき上からかぶせて着ました。

「ねんねこ」という言葉は、眠ることを意味する幼児語「ねんね」に接尾語「こ」がついたもので、子守歌は「ねんねこ歌」とも呼ばれます。古くは狂言の歌謡にも「ねんねこ、ねんねこ、ねんねこや、目だに(目さえ)覚むれば、ちよちよち、あわわ」とありました。大正10年に北原白秋が作詞した「揺籃の歌」という「眠らせ歌」にも、「揺籃のうたをカナリアが歌うよ ねんねこ ねんねこ ねんねこよ…」と歌われています。

ねんねこ半纏は、今ではほとんど見るものがなくなりましたが、母に背負われたあたたかいぬくもりや、そこで聞いた子守歌を、木枯らしが吹くころに、なつかしく思い出す人もいないのではないのでしょうか。

【編】 寒がりな私には、つらい季節が近づいてきました。取材で  
【集】 たくさん外に出れば、寒さに慣れるかもしれないと思ったの  
【後】 ですが、去年は「そんな厚着じゃ、鍛えられないよ」といわ  
【記】 れる始末。今年は、頑張って薄着で過ごしましょうか。でも  
寒いんですね…。(M)

わがやのアイドル



森澤 太一くん  
(4歳2か月)  
友貴くん  
(1歳9か月)

ゴーオンジャーが好きな2人。ポーズを真似したり、戦いごっこしたり、仲がいい兄弟だよ。ゴーオン!!



一条 瑠生くん  
(1歳8か月)

車、電車、じいじ、ばあば、パパ、ママ、保育園。大好きなものに囲まれて、幸せいっぱい。将来は野球の選手になってほしいということが、パパの夢です。

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。  
☎・☎ 役場秘書広報課 ☎ (295) 2112 内線 332